

キャリア・パテル『墓標都市』 のメモ

takaidos

キャリー・パテル。
2014年発行。

細美遥子・訳。
2017年7月発行。



主な舞台は地下の都市で歴史を知ることが禁止されている世界。
その中で次々と起こる殺人事件。
SFの設定で刑事もの。

過去の歴史を捨て去るというテーマとした作品としては、レイ・ブラッドベリ『華氏451』、JPホーガン『断絶への航海』、歴史上では毛沢東の文化大革命があるが、本作では旧文明を滅ぼした大惨事から数百年を経て、ヴィクトリア朝の階級社会で失われた過去の知識は重大なタブーとして政府に管理されている。

期待を抱かせるが、設定や背景の詳細、地下世界の様子や特徴などがよく描き切れていない。

演出が下手。意味のない演出がたくさんある。
ハリウッドのスパイ映画や面白そうに見えるアニメの影響を受けているような気がする。
例えば秘密捜査のために上流階級の舞踏会に潜入する際に主人公の刑事が演奏家を気絶させて招待券を借用するという筋書き。
趣味で小説を書く練習をしているような作品。

なんでもないような言動はさらっと進めるべき。
なぜそう言い切れるのか理由が分からない、言い切り型の発言。
意味ありげで粋な会話のように話しているが大して重要ではない。
そのためスカスカな会話や描写をたくさん読まされ、中身が乏しい。

地下都市の世界観が分かるように地図や挿絵がほしい。
登場人物の個性、書き分けが不明瞭。

ジェーンが暗殺者の影に怯えながら郵便局の私書箱に向かう話と、孤児院時代に女院長の部屋に忍び込んだ話が交互に描かれているが、原文では過去の話は斜体でも使っているのかもしれない。
翻訳も過去の話では（）など使って解りやすくすればいい。

マローンの言葉は女性言葉であるべきだが「だ」調になっていて、

男っぽい女性であっても言わない言い回しになっている。訳の問題。

いいのはKanehira氏の表紙の絵だけ。

<目次>

プロローグ

第1章捜査官と洗濯女

第2章巧みな立ち聞きの技

第3章保存理事会

第4章家中のよそ者

第5章無期限に

第6章部外者たち

第7章舞踏会場の反対側

第8章汚れた洗濯物

第9章投函された手紙

第10章予期せざるきゃく

第11章うわさと半面の真理

第12章家庭訪問

第13章裏切り

第14章誤解と不運

第15章明かされた事実

第16章機関(からくり)始動

エピローグ

謝辞

訳者あとがき

<登場人物>

リーズル・マローン:リコレッタ市警察の女性捜査官。★

レイフ・サンダー:市警察の新人捜査官。元舞台役者。★

ヨハンセン署長:市警察の長。マローンたちの上司。

ファラー・サリバン:ポッチャリ体型の署長秘書。

ワナー・カーヒル:歴史学者。保存理事会の上級研究員。70歳。

チャーリー・ハスク:歴史学者。カーヒルの上司。女性。50歳以上。

ドミンゲス:チャーリーの部下。

ジェーン・リン:洗濯女。孤児院の出身。★

フレドリック・アンダース:新聞記者。ジェーンの親友。★

レーナ:ホレンズのメイド。

ローマン・アルノー:評議会の相談役(コンサルタント)。声が黒曜石を連想させる男。

アウグストゥス・ルーサーズ:名誉評議員。市の有力者。
アルフレッド・ホルンズ:評議員。保存理事会の理事長。

ラニング・フィッツヒュー:市の建築局長。高名な建築家。首席首都設計士。62歳。
ドクター・ブリン:検死官。

オリビア・サアベドラ:南方からの移住者。
フーシェ大佐:市警防団(シティ・ガード)の隊長。
カスター・サトー夫妻:14年前に殺された有力な評議員夫妻。ローマンを養子にしていた。
レディ・マイラ・ラシェース:ホワイトネイル。鉄道王の娘。相続人。
マダム・フランシーン・アトロップ:ホワイトネイル。
マダム・ルシンダ・クローテ:ホワイトネイル。

オックスリー:冶金学者。優れた合金を作り出すが成果を独り占めしようとする。
アザリ:冶金学者。ローマンに研究成果を盗まれる。
モーティマー・スタニスラウ:荷運び人。サトー夫妻を凶殺した強奪犯。迅速に処刑されている。
オリビア・サアベドラ:ジェーンのルーム・シェア募集に応じて来た女性。メイド。

エドモンド・ウィッカリー:評議会に指名されてスタニスラウの弁護士だった。
ジャッケブ・サトー:マローンを助けてプロメテウス・プロジェクトを知る人物。殺されたカスター・サトー夫妻の息子。

<あらすじ>

ルーサーズ評議員は厚さ1インチのファイル『プロメテウス』を歴史学者カーヒルに渡す。

リコレッタ市で地下で働く保存理事会の歴史学者ワーナー・カーヒルが殺された。

場所はホワイトネイルという上流階級が住む地区で捜査は厄介そうだった。

ヨハンセン署長は女性捜査官マローンと新人捜査官レイフ・サンダーに捜査を命じる。

清掃人たちに嫌疑がかかるがシロのようだった。

保存理事会の捜査には評議会の許可が必要だったがマローンは先に現場を見に行く。

犯人は地下から部屋に入り、鍵を落として中から窓を割って外の地上に逃げて行ったようだった。

カーヒルの研究成果も無くなっていた。

洗濯女のジェーンは露店のそばで雄鶏と卵のような2人の男たちが怪しい会話をしているのに気付く。ひとりがフィニアスという短軀ハゲ頭の男だった。

2人は歴史学者殺害事件のことを話していたようだった。

マローンはカーヒルの上司チャーリー・ハスク博士に会って情報を得ようとするが追い出される。

ジェーンはホレンズに洗濯物を届けて、評議員コンサルタントのローマンに初めて会う。

ジェーンは建築局長フィッツフューに洗濯物を届けに行くが彼は殺されていた。

そしてジェーンも薬物を注射されて気絶させられる。

病院で目を覚ましたジェーンのそばにはフレドリックが付き添い、マローンとサンダーの聴取に答える。

ヨハンセン署長の許可を得たマローンとサンダーは保存理事会に乗り込むが、ルーサーズ、ドミンゲスは捜査に応ぜず、シティ・ガードにリコレッタ市の警備を強化する。

ジェーンはフレドリックに伴われてブルンメル・ホールで催される、ホワイトネイルの舞踏会に出席し、ローマンや3人のホワイトネイルの婦人たちからローマン・アルノーについて話を聞く。

ローマンはアルノー公爵夫妻が突然病気で亡くなったあと、その親友だったサトー評議員夫妻の養子として育てられた。

ところがそのサトー評議員夫妻は追い剥ぎに殺されてしまった。

その後ローマンには良くない噂が付きまとうようになる。

人殺しもしているとか、冶金学者アザリの研究成果を盗んだ、など

。

舞踏会に潜入したマローンはホレンズ評議員と話す。

ホレンズはサト一家の殺人事件について調べることに、自分にも何かあったら家にある金庫を開ける、という。

マローンはまたジェーンに捜査への協力を依頼する。

ジェーンのところにホレンズのメイド・レーナが夜までにジャケットのシミ抜きをして欲しいと持って来る。

ジェーンはジャケットから紙片を発見。

そこには名前が書かれていた。

『

1. A・ルーサーズ
2. A・ホレンズ
3. L・フィッツフュー→P・ドミンゲス
4. C・ハスク

◦ ◦ ◦
W・カーヒル

R・アルノー

何十という名前』

フレドリックがホレンズが殺された、とジェーンのところに駆け付ける。

ジェーンは紙片のことをマローンの私書箱に投函することにする。ジェーンのルーム・シェア募集に早速メイドのオリビア・サアベドラがやって来る。

マローンとサンダーはホレンズ邸に潜入しマローンは地下の金庫から謎の書物『プロメテウス』を手に入れる。

オリビアはフレドリックの仕事についていろいろ聞く。

フレドリックはオリビアは娼婦だと考える。

ローマン・アルノーが襲撃されたという記事を見ていたジェーンはローマンを訪ねる。

そこで古い書物のリストや地図を見つけるが、ローマンに脅迫されて追い出されてしまう。

ローマンはオリビアは自分のスパイだとも言う。

ジェーンは地図をマローンに送る。

マローンとサンダーはサトー夫妻殺害犯スタニスラウの弁護士エドモンド・ウィッカリーの法律事務所に行き、当時の資料を集める。

そして警察署に戻って来たが、シティ・ガードのフーシェ大佐がマローンを逮捕しに来ていたので逃げる。

マローンは評議会に都合の悪い事を嗅ぎ廻り過ぎたのだ。

しかしマローンはドミンゲスに捕まってしまう。

一度は拘留されたマローンだったが謎の人物によって錠を開けられ地上へ逃れて列車で、地図と暗号の示す場所に向かう。

ジェーンとフレドリックはオリビアに誘われて、カフェのバルコニーで食事をする。

そのとき爆破事件が発生する。

オリビアはここへ連れて来たのはローマンの差し金であなた方を守るため、という。

マローンが廃墟を通過して辿り着いた場所は図書館だった。

警備兵や研究員の居る部屋にハクス博士やサンダーが入って来た。サンダーもマローンの机にあった地図を見て辿り着いたのだった。しかしサンダーは警備兵に刺されてしまう。

マローンの前に見たことのない人物ジャック・サトーが現れる。ジャックは殺されたカスター・サトー評議員夫妻の息子だった。ジャックはマローンに今までのことを話す。カスター・サトーは過去の知識を掘り起こそうとする評議会に反対していた。彼らの中には過去の惨事を引き起こした兵器を手中にしたい輩もいた。そしてそれに反対して殺されたのだった。評議会のスパイであるローマン・アルノーは彼の親友でありスパイでもあった。いまジャックは軍隊を組織し、政府を打倒、革命を起こそうとしていた。そしてマローンにも自分を支持してほしいと言い、マローンは受け入れる。

爆破事件現場からジェーンはローマン・アルノーを訪ねる。ローマン・アルノーもまたジェーンにこれまでのことを打ち明ける。ジェーンの両親も評議会に殺されたため、ローマンは罪滅ぼしのためにジェーンを助けたい思っていたのだった。

ジャックの軍隊が政府打倒の戦闘を開始する中ジェーンはフレドリックを探しに戻るが、フレドリックはその戦闘の中心ドミナリ・ホール(地下都市の脊椎/スパイン～直径800mで数キロ)に行ってしまった。フレドリックは撃たれていた。そこへローマンが現れ「逃げろ」という。自分はジャックへの忠誠心を示すために、評議員の実力者で大伯父であるアウグストゥス・ルーサーズを殺すという。ジェーンはローマンを撃って、ルーサーズが隠れている部屋に行く。

ルーサーズは自分の両親を殺した男でもあった。しかしジェーンはルーサーズを逃し、自分もフレドリックといっしょに地上、リコレッタの外へ逃げて、農村で助けてもらう!☒。

ヨハンセンはフーシェ大佐の部隊に疑われて警察署を襲われ、フアラを逃して、フーシェと撃ち合って死亡する。

評議員たちはルーサーズを除いてみんな殺され、ジャック・サトーは権力を掌握する。

<メモ>

リコレッタ市。

- ・ ヴィニヤード(葡萄園):貧民街
- ・ イースト・イートン:ホワイトネイル(白い爪=富裕層)が住む地区
- ・ サウス・ヘイヴン:農村地帯。

☒☒組織

評議会:歴史を研究することは評議会により禁止されている。

保存理事会:

市警察:保存理事会を捜査するには評議会からの請負契約書が必要。

市警団(シティガード):評議会の下。市警察とは対立。

用地整備人=清掃人?

洗濯女

。。。。

続編が二巻あり、次巻ではリコレッタを去った2人(ジェーンとフレドリック?)は地上を旅し、イスラム世界のような地下大都市マディナに辿り着く。